

第1学年国語科学習指導案

児童 1年3組 男子12名 女子15名 計27名
指導者 鈴木 知子

- 1 単元名 こえにだしてよもう
教材名 「くじらぐも」(物語)

2 児童と単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、これまで物語文の学習において、「はなのみち」では挿絵と文の両方から内容を読み取っていく学習を、「おむすびころりん」と「大きなかぶ」では昔話や民話を楽しく読みながら場面の様子の想像を広げる学習を行ってきた。読みの方法としては、場面ごとに様子や登場人物の気持ちの移り変わりを想像したり、言葉のまとまりやリズム、強弱などに気を付けながら工夫して音読したりする経験をしている。また、「はなのみち」や「大きなかぶ」では動作化を学習し、「おむすびころりん」では、登場人物の気持ちをふき出しに書く学習を行ってきた。

音読が好きな児童が多く、6月から始めた家庭音読にも進んで取り組んでいる。このため、大きな声で自信をもって読める児童が多くなってきたが、まだ、拾い読みや分かち読みの段階のため、挿絵から想像したことを叙述と結びつけることが困難な児童がいる。登場人物の気持ちをふき出しに書く活動については、意欲的に取り組む児童が多くなってきたが、平仮名の習熟が不十分なため、思いはあっても言葉や文に表現することが困難な児童が数名いる。また、文章を書く際に、助詞や拗音、促音などを正しく表記できなかつたり、自分が表現した文章を読めなかつたりする児童も多い。発言については、自分の考えに自信がもてず、進んで発表できなかつたり、声が小さかつたりする児童もいる。

(2) 単元と教材について

本単元「こえにだしてよもう」は、登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむことをねらいとしている。

本教材「くじらぐも」は、体育の授業という身近な現実の中から、幻想の世界に入り、想像の中で十分に遊んだ後に、また現実の世界に戻る物語である。自分たちと同じ1年生の話であることから、親近感をもち、みんながあこがれるであろう「雲に乗ってみたい」「空の上から下の景色を眺めてみたい」などの思いを、作中の人物と一体になって読むことのできるおもしろさがある。

構成は、5つの場面からなっている。冒頭の2文で場面が明白に設定され、雲のくじらをたたみかけるように登場させ、これから起こることへの興味をわきたたせてくれる。そして、くじらと子どもたちとの呼応が始まり、心が通じ合い、子どもたちが雲の上にとび乗ることによって場面は大空へと変わる。大空を泳ぎ回り、やがてお昼の時間となり、楽しさを残しながら夢のような出来事が終わり、場面は再び地上へと戻る。

児童にとって、文字と挿絵から想像を楽しみ、登場人物に同化し、呼応する会話や繰り返しの表現のおもしろさなどを音声に表現したくなる教材である。これらの文章表現の特長を生かして、場面に合った読み方を工夫することができる。

(3) 付けたい力と読みの方法

【付けたい力】

読みの方法

【場面の様子について想像を広げ、叙述と結び付けて読む力】

場面の様子や移り変わりに気を付けたり、登場人物に同化したりして読む。
 ・情景描写 ・登場人物の様子や会話 ・繰り返しの表現

場面の様子について想像を広げて読むためには、作品を読み、その世界にたっぴりと浸ることが大切である。そこで、文を読みながら挿絵にも注目させ、そこから表情や雰囲気を読み取らせていく。さらに動作化をすることにより、「子どもたち」になりきって作品の世界を味わわせるようにする。また、ふき出しを付けた学習シートを準備し、想像したことを書かせるようにする。その際、児童の想像があまりにも勝手な方向に流れていかないようにするために、叙述に適宜立ち返らせ、考えの根拠となる情景描写や登場人物の行動・会話、繰り返しの表現を確認するようにする。

【語や文としてのまとまりや内容について意識しながら声に出して読む力】

はっきりとした発音で意味内容が明瞭になるように声に出して読む。
 ・語のまとまり ・語と語のまとまりや句読点 ・声の大きさ ・言葉のリズムや速度

語や文としてのまとまりや内容について意識しながら声に出して読むためには、書かれていることを正しく読むことが大切である。また、意味内容が明瞭になるように句読点で区切ったり、ひとまとまりの語や文を意識したりして、はっきりとした声で読むことも大切である。そこで、なぞり読みや分かち読みなどから始めて、リレー読みや役割読みなどのさまざまな読み方を取り入れ、言葉のリズムや速度に気を付けながら、音読練習を繰り返し行うようにする。

3 単元の目標と評価規準

	単元の目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	「くじらぐも」に関心をもち、楽しんで読もうとする。	・文や挿絵を基に、場面の様子や登場人物の気持ちを想像したり、会話の部分を楽しんだりして読もうとしている。 ・自分の見た雲について、考えたり発表したりしようとしている。
読む能力	「くじらぐも」の場面の様子を想像を広げながら、楽しんで読むことができる。読むことウ 語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読むことができる。読むことエ	・文や挿絵を基に、話の大体が分かり、場面の様子、子どもたちやくじらぐもの気持ちなどを想像を広げながら読んでいる。 ・語や文としてのまとまりや内容、声の大きさなどを考えながら、声に出して読んでいる。
書く能力	雲とお話したいことを書くことができる。書くことア	・自分が見つけた雲や会ってみたい雲を想像して描いた絵に、手紙を書いている。
言語についての 知識・理解・技能	漢字や片仮名を正しく読んだり書いたりすることができる。 言語事項イ	・新出漢字や片仮名の読み書きを理解している。

4 単元の指導計画と評価規準 (11 時間)

段階	時	学習活動	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
見 通 す	1	今までに見た雲の様子から雲のイメージを強くし、題名や挿絵などから、話の大体をとらえる。	今までに見た雲の様子を自分の言葉で発表しようとしたり、あらすじを発言しようとしたりしている。(観察・発言)	作者、登場人物、主人公、時、出来事などについて、題名や挿絵を手がかりにしてとらえている。(発言)	
	2	全文を通読し、印象に残った場面について話し合う。新出漢字や片仮名の練習をし、語句の意味を確認する。	自分の心に残った場面を発表しようとしたり、友だちの心に残った場面を聞こうとしたりしている。(発言・観察)		新出漢字や片仮名を正しく読み書きしている。(観察・スキル)
	3	語や文のまとまりに気を付けて、音読練習をする。	進んで声に出して読もうとしている。(観察)	語や文のまとまりに気を付けて、声に出して読んでいる。(発言・音読)	
深 め る	4	まねをするくじらぐもを見た子どもたちの様子や気持ちを想像して読む。	進んで課題について考えようとしている。様子が分かるように、はっきりとした声で読もうとしている。(観察)	まねをするくじらぐもを見た子どもたちの様子や気持ちを想像している。様子が分かるように、はっきりとした声で読んでいる。(学習シート・発言)	
	5	くじらぐもにとび乗ることになるまでの子どもたちの様子や気持ちを想像して読む。		くじらぐもにとび乗ることになるまでの子どもたちの様子や気持ちを想像している。会話文をはっきりとした声で読んでいる。(学習シート・発言)	
	6	くじらぐもにとび乗ろうとする子どもたちの様子や気持ちを想像して読む。		くじらぐもにとび乗ろうとする子どもたちの様子や気持ちを想像している。語のまとまりに気を付けたり、会話文をはっきりとした声で読んだりしている。(学習シート・発言)	
	7	空を旅する子どもたちの様子や気持ちを想像して読む。		空を旅する子どもたちの様子や気持ちを想像している。会話文や繰り返しの表現に気を付けたり、はっきりとした声で読んだりしている。(学習シート・発言)	
	8	くじらぐもとお別れをする子どもたちの様子や気持ちを想像して読む。		くじらぐもとお別れをする子どもたちの様子や気持ちを想像している。語のまとまりに気を付けたり、会話文をはっきりとした声で読んだりしている。	

			(学習シート・発言)	
ま と め る	9	音読発表会をする。	内容について意識しながらはっきりとした声で読もうとしている。(観察)	内容について意識しながらはっきりとした声で読んでいる。(音読)
広 め る	10 11	自分の見つけた雲や会ってみたい雲などを絵に描いたり、想像したりして手紙を書く。	今までに見た雲やこれから会ってみたい雲に対して、自分が話したいことを考え、発表しようとしている。(観察)	書く能力 今までに見た雲やこれから会ってみたい雲に対して、自分が一番話したいことを手紙などに書いている。(学習シート) 助詞や句読点を文の中で正しく使っている。(学習シート)

5 本時の指導(8/11)

(1) 本時の目標

くじらぐもとお別れをする子どもたちの様子や気持ちを想像したり、はっきりとした声で読んだりすることができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

観 点	具体的評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する 児童への手立て
読む能力		<p>前時までの学習を想起したり、会話文を基にしたししながら、別れを惜しむ子どもたちの様子や気持ちを想像し、発表したり、ふき出しに書いたりしている。</p> <p>例)「とてもたのしかったから、おわかれするのはさびしいな。」 「くものうえは、きもちがよかったよ。またのせてね。」</p>	<p>前時までの学習を想起したり、会話文を基にしたししながら、お別れをする子どもたちの様子や気持ちを想像して、ふき出しに書いている。</p> <p>例)「空のたびは、とてもたのしかったよ。」 「みんなでうたをうたってたのしかったよ。」</p>	<p>自分なりに想像できない児童や表せない児童には、ヒントとなる言葉を示すと共に、友だちの発表や前時までの掲示を手がかりに考えればよいことを助言する。</p>
		<p>語のまとまりに気を付けたり、会話文の様子が表れるように読んだりしている。</p>	<p>語のまとまりに気を付けたり、会話文をはっきりとした声で読んだりしている。</p>	<p>語のまとまりに気を付けることや、友だちの読み方の上手なところを参考にすることを助言し、声に出して読むようにさせる。</p>

(3) 展開

段階	学習活動 発問 ・期待する児童の反応	教師の関わり方 ・留意事項 評価
見通す 5分	<p>1 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">くじらぐもとおわかれするとき、子どもたちは、どんなことをおもったでしょう。</div> <p>2 読みの視点を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのいったこと、ようす ・くじらぐものいったこと、ようす </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちやくじらぐもの会話文や様子に気を付けて読めばよいことを確認する。
深める 35分	<p>3 学習場面を音読する。</p> <p>4 学習課題を解決する。</p> <p>(1) 学校に戻るまでの子どもたちの様子を読み取る。</p> <p>先生は、どうして驚いたのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あっという間にお昼になっていたから。 ・とても楽しかったので、こんなに時間がたっていたとは思わなかったから。 <p>くじらぐもは、どうしましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「では、かえろう。」と、回れ右をした。 <p>すぐに学校は見えてきましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少し時間がかかった。 ・いろいろなところに旅をしていたので、すぐには、学校に着かなかった。 <p>(2) お別れするときの子どもたちやくじらぐもの様子を読み取る。</p> <p>子どもたちは、ジャングルジムの上でどのようにお別れをしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐもに聞こえるように大きな声で「さようなら。」と言った。 ・くじらぐもが遠くに行って見えなくなるまで手を振った。 <p>子どもたちは、くじらぐもと別れるとき、「さようなら。」の後にどんなことを言ったのでしょうか。</p> <p>くじらぐもは、「さようなら。」の後にどんなことを言ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくも楽しかったよ。また会おうね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おや、もうおひるだ。」から、先生が驚いたのは、昼になったことそれ自体ではなく、あっという間に時間が過ぎたこと、そして、時間を忘れるほど楽しく遊んでいたことへの驚きであることに気付かせる。 ・「しばらくいくと」の意味をつかませる。 ・くじらと一緒に空の旅をしていたこと、そのときの楽しい気持ちについて、前時までの学習を基に振り返らせる。 ・読みの視点を基に、子どもたちの言ったことや様子を見つけさせる。 ・挿絵を提示したり、「さようなら。」を音読したりすることにより、子どもたちに同化させ、想像を広げやすいようにする。 ・「さようなら。」の後に続く言葉を考えてふき出しに書かせる。 子どもたちの気持ちを想像してふき出しに書くことができたか。 (学習シート・発言) ・「また、げんきよく」から、くじらぐもも、楽しい旅で満足していることに気付かせる。

		・みんなと友達になれてうれしかったよ。
ま と め る 5 分	5	まとめの音読をする。
	6	本時を振り返る。
	7	次時の予告をする。
		・本時の学習場面を役割読みさせる。 語のまとまりに気を付けたり、会話文をはっきりとした声で読んだりすることができたか。(音読) ・学習シートに、自己評価を記入させる。

(4) 板書計画

くじらぐも

なかがわりえこ

かだい

くじらぐもとおわかれするとき、子どもたちは
 いろんなことをおもったでしょう。

きをつけること

- ・子どもたちのいったこと、ようす
- ・くじらぐものいったこと、ようす

「おや、もうおひるだ。」

- ・とてもたのしくあそんでいた
- ・空のたびが、とてもたのしかった

「では、かえろう。」

ジャングルジムのうえに
 みんなをおろしました

みんなが
 手をふって

またげんきよく
 あおい空のなかへ

挿絵
 (子どもたち)

さようなび。
 空のたびは
 たのしかったよ。

挿絵
 (くじらぐも)

また、あおひる。
 さようなび。